

協会案内



公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会
Japan Institute of Plant Maintenance

公益社団法人日本プラントメンテナンス協会は、
生産性や設備管理技術、保全技術・技能の向上に関する課題解決を支援することにより、
産業界における安心・安全で安定した生産活動・保全活動の促進及び
品質の安定・向上に寄与してまいります。



代表者挨拶

今、日本のモノづくりは「持続可能な開発目標(SDGs)」を軸にした脱炭素やカーボンニュートラルへの対応が求められ、加えて、DXの進展により、100年に一度の大変革期を迎えています。

何ごとにも柔軟に対応できる人材がいれば、この変化に対応できるだけでなく、より進化したモノづくりができると考えています。

まさに「モノづくりは人づくり」。人を育てることが何より大事だと考えます。

さらに、モノを生み出す源泉である設備の管理は、モノづくりに不可欠のものであり、カーボンニュートラルへの対応でも、設備の管理・メンテナンスの重要性がさらに高まっています。不良を出さない、故障をさせないことが何よりも重要です。

当会は、設備管理に関わるわが国唯一の公益法人として、機械保全技能士や自主保全士などの資格認定制度や、TPM、からくり改善などの普及等を通じて、モノづくりに欠かすことができない設備管理と、それを支える人材の育成を支援し、産業界の発展に貢献できるよう努めてまいります。

皆様のご協力、ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会
会長 河合 満

協会概要

名称

公益社団法人日本プラントメンテナンス協会 (Japan Institute of Plant Maintenance)
(略称: JIPM)

沿革

- | | | | |
|-------|---|-------|--|
| 1961年 | 社団法人日本能率協会内に「設備管理部会」発足 | 1981年 | 通商産業大臣の許可により
社団法人日本プラントメンテナンス協会設立 |
| 1964年 | PM優秀賞(現TPM賞)審査・表彰制度を制定 | 2012年 | 内閣総理大臣の認定を受け
公益社団法人日本プラントメンテナンス協会へ
移行 |
| 1969年 | 「設備管理部会」を発展的解消し、
日本プラントエンジニア協会設立
プラントエンジニア誌創刊 | 2014年 | 厚生労働大臣の指定を受け
「機械保全技能検定」試験の指定試験機関へ
(2015年より全国で試験実施) |
| 1971年 | TPMを提唱 | | |

役員一覧(2026年6月現在)

役割	氏名	会社名・団体名	役割	氏名	会社名・団体名
会長	河合 満	トヨタ自動車(株)	理事	原本 充	UBE(株)
副会長	高田 寿一郎	(株)高田工業所	//	栴岡 一成	(株)豊田自動織機
//	平井 泰忠	日産自動車(株)	//	松田 健嗣	JFEスチール(株)
//	鳳城 延佳	出光興産(株)	//	宮脇 克典	マツダ(株)
//	山口 正裕	東レ(株)	//	桃井 伸一	(株)不二越
専務理事	鈴置 智	(公社)日本プラントメンテナンス協会	//	安田 洋	豊田合成(株)
理事	占部 剛	日本製鉄(株)	//	山田 正信	(株)カネカ
//	海老原 次郎	(株)デンソー	//	山本 裕基	(株)神戸製鋼所
//	片外 信和	アイシン軽金属(株)	//	吉岡 淳	サントリースプロダクツ(株)
//	坂田 英人	大日本印刷(株)	//	吉野 智昭	ジヤトコ(株)
//	鈴木 良規	トヨタ自動車東日本(株)	//	中村 努	(公社)日本プラントメンテナンス協会
//	滝沢 智彦	旭化成(株)	//	小野田 純	(公社)日本プラントメンテナンス協会
//	中村 正己	(一社)日本能率協会	監事	坂倉 猛	(株)ジェーエムエーシステムズ
//	成毛 功	AGC(株)	//	長南 全隆	長南全隆税理士事務所
//	羽田 優	富士フイルムエンジニアリング(株)			

事業概要

調査・研究開発

- 設備管理、保全技術・技能、人材育成と周辺環境に関する実態の調査や、課題を解決する方策の研究を行っています。

人材育成

- 設備管理、保全技術・技能を中心としたモノづくり人材の育成を支援するプログラムを、セミナー(集合型・オンライン)や通信教育にて提供しています。
- 生産や保全に関する技術・技能を客観的に評価・認定しています(自主保全士認定、機械保全技能検定)。

普及啓発

- 発表会、講演会等の大会・イベントを企画・開催し、調査・研究の成果や、製造現場における改善事例の発表の場を設ける等により、設備管理、保全技術・技能等の普及を行っています。
- 生産や保全に関わる最新情報・事例を、『プラントエンジニアデジタル』などを通じて、適宜発信しています。

審査表彰

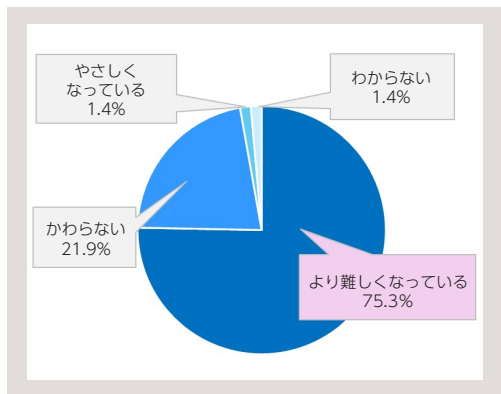
- 生産・保全の効率化と基盤強化のための管理技術であるTPMによって優れた効果をあげた事業場や、設備管理、保全技術・技能の発展に寄与する優秀な論文・商品・技術者を表彰しています。

調査・研究開発

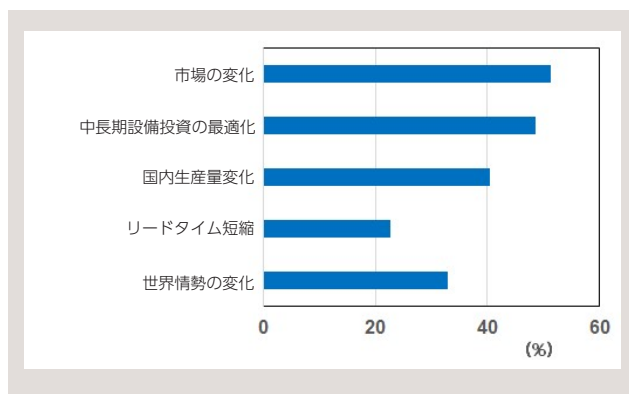
設備ユーザーのニーズと課題が調査・研究のテーマです

経営からの要求に応える設備管理でありたい。しかし、要求される事項によって、設備管理の課題は異なってきます。そのため、設備ユーザーのニーズと課題からテーマを選定して、調査・研究を行っています。

■ 保全の難しさの状況



■ 設備管理・保全業務を取り巻く環境の変化



『2023年度メンテナンス実態調査』より

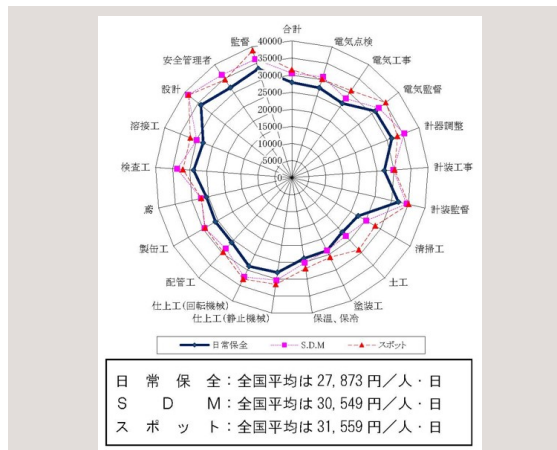
設備管理の実態調査

① 「メンテナンス実態調査」の継続実施

1992年より継続実施しています。保全費や要員数調査等の経年変化を把握するデータに加え、産業構造変革期を考慮して、毎年設問をリニューアルしており、各所で活用されています。

② 「外注技能工単価調査」の継続実施

装置型産業の設備ユーザーを対象として、メンテナンス工事に関する外注技能工への支払い単価調査を、1989年より継続実施しています。

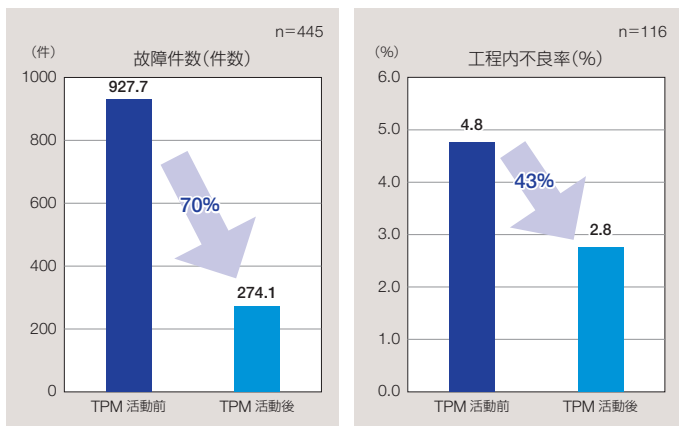


『2024年度外注技能工単価調査』より

TPM 活動指標や調査データ分析の活用

これまでに各種発表会、TPM賞審査、からくり改善くふう展、機関誌、調査・研究等で蓄積した、様々な資料データを整理・分析することで、産業界に役立つ情報や知見のデータベース化を進めています。

■ TPM賞受賞事業場におけるTPM活動の成果例



人材育成

モノづくり人材の教育体系〈例〉とJIPMプログラム

製造業におけるモノづくり人材の育成を支援するプログラムを、内容や特徴に応じて、通常の集合型のほか、ライブ配信、オンデマンド配信にて提供しています。

*モノづくり人材……製造業における技能者・技術者の総称

レベル	対象	実務経験年数(目安)	モノづくり人材の教育体系〈例〉とJIPMプログラム〈★〉							
			階層別研修	役割・専門別教育	OJT	自己啓発	資格	その他		
L4	上級管理者	20年～	幹部研修	★1 ● マネジメント研修 ● 社内講師育成研修 ● 高度専門技能研修	部下へ現場指導	★5 改善手法・問題解決	★6 国家資格・技能検定	★7 民間資格	★8 資格取得支援	★9 社外イベント・社外交流
L3	管理者 技能スペシャリスト (高度専門職)	12年～	管理者研修							
L2	チームリーダー	7～12年	現場リーダー研修	★2 ● リーダー研修など ● TPM研修など	上司から現場指導	コンプライアンス 語学	国家資格・法定資格			
L1-2	中堅技能者	4～6年	中堅社員研修	★3 専門技能初級管理研修など						
L1-1	一般技能者	0～3年	新入社員研修	★4 基礎技能研修						

★1～10がJIPMが実施運営するプログラムです。

代表的なプログラム例

★1	設備管理士養成コース 計画保全士養成コース	★6	機械保全技能検定(特級・1級・2級・3級)
★2	メンテナンス・フォアマンコース	★7	自主保全士検定試験(1級・2級)
	TPMインストラクター養成コース		自主保全士通信教育(1級・2級)
	管理・監督者のためのTPMの初めの一步		
★3	TPM推進の基本講座	★8	自主保全士検定試験準備講座
	防食施工計画士養成コース		設備管理全国大会
	設備診断技術セミナー		改善事例発表大会
★4	外面腐食 実践対策講座	★9	からくり改善くふう展
	要素技能実習講座		研究会(各地域で開催)
	設備診断技術入門講座(回転機械・静止機器)		TPMレディース大会
★5	計画保全入門講座	モノづくり講演会	TPM優秀工場見学会、教育施設見学会
	すぐに見えるFMEA/FTA		
	「からくり改善」講座(初級・中級)		

自主保全士® 認定制度～設備に強いオペレーター～



自主保全士認定制度とは？

製造オペレーターに求められる知識と技能について、製造部門が受け持つ保全の一部機能や管理技術を評価するために当会が定めた認定制度です。

「検定試験」(集合型とオンラインで実施)および「通信教育」を通じて、「自主保全士」を認定しています。

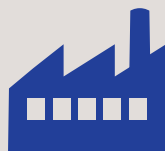
累計 申請者:約**410,600**人 認定者:約**245,700**人 (2026年5月現在)

自主保全士取得のメリット



第三者による 公平な評価

- 試験による評価で公平な結果を得られる
- 知識の正確な確認が可能



企業の競争力強化

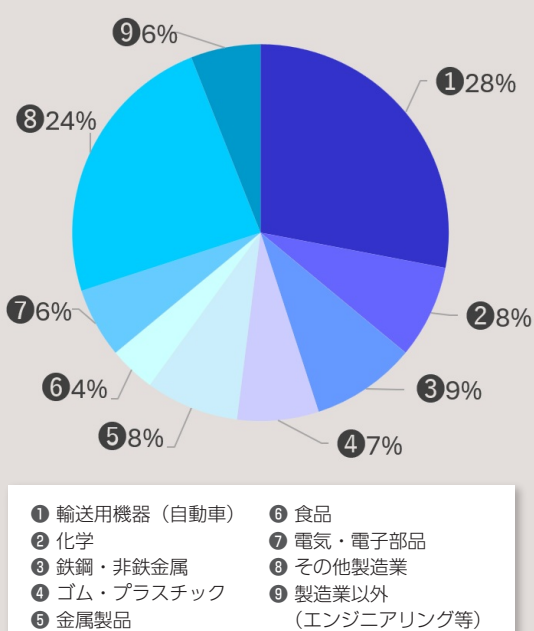
- 故障・品質不良の早期発見・処置
- 潜在欠陥の抽出・復元
- ロス発生削減と未然防止



オペレーターの レベルアップ

- 知識、技能の向上
- 資格取得によるモチベーションアップ
- オペレーターのレベルアップによる保全員の業務の高度化

受験者業種別割合



参考:自主保全士検定試験団体申込みデータ(2025年度)

利用企業の声

自分の設備は自分が守る意識

自主保全士取得のメリットは、設備の専門家に任せず、自分の設備は自分がしっかり守る意識が定着したこと。その結果、設備がいかにとまらないようにするか、故障の未然防止はどのようにすれば良いかという意識が芽生えた。その結果、ミスによる稼働停止件数が半減した。(自動車系:T社)

自主保全士と他資格との相乗効果

業務上必要な専門知識・技術習得を目的に資格取得を推奨。自主保全士だけでなく、機械保全や機械加工の技能資格を合わせて持つことで、理解度が深まり、生産現場に活かされている。これが、社員のモチベーションを向上させ、上位級の資格取得や、他技能取得につながる良いサイクルになっている。(非鉄金属系:R社)

機械保全技能検定



技能検定とは

技能検定とは、働くうえで身につける、または必要とされる技能の習得レベルを評価する国家検定制度です。技能に対する社会一般の評価を高め、働く人々の技能と地位の向上を図ることを目的として、職業能力開発促進法に基づき実施されています。機械保全をはじめ、機械加工、建築大工、ファイナンシャルプランナーなど、全部で133職種(2026年4月時点)の試験があります。



機械保全技能検定とは

機械保全とは、工場の設備機械の故障や劣化を予防し、正常な運転を維持するために重要な技能であり、製造現場に欠くことのできない能力です。
この技能を評価する唯一の国家検定が、「機械保全技能検定」です。
技能検定全職種のなかで2番目に多い受検者数で、モノづくり分野の職種の中では1番多く受検いただいています。

機械保全技能検定を取得するメリット

【機械保全技能士取得者】



「機械保全技能士」
を名乗れる



基本的な技能を
確認(学習)できる



生産/保全業務の
レベルアップ



第三者による
公平な評価

【受検企業・団体】



製造現場の
現場力の向上



社員のやる気・
学習意欲向上

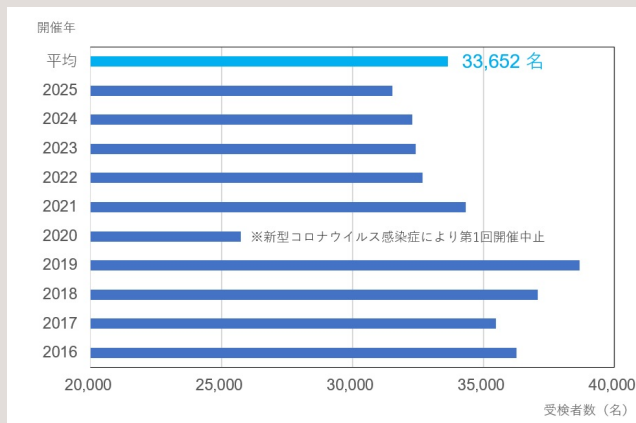


生産・保全部門の
信頼性向上



客観的評価による
企業競争力の強化

機械保全技能検定の受検者数推移



2016～2025年の10年平均利用者数
年間 **33,652名**

技能検定全職種(133職種)
第2位

モノづくり分野の技能検定
第1位

普及啓発

設備管理強調月間

毎年6月を「全国設備管理強調月間」と定め、各種行事を展開し、設備管理意識の向上に大きな効果をあげています。

- 全国統一スローガンの制定
- 全国7地域における、生産や保全に関する現場改善活動の事例発表大会の開催(改善事例発表大会)
- ポスター・標語・記念作文の募集と表彰

大会・イベント

現場革新や改善能力向上をめざし、TPMや設備管理をテーマとした大会やイベント、工場見学会を開催しています。

設備管理全国大会

1961年より開催されている設備管理におけるわが国最大の技術発表大会です。本大会を通じ、設備管理技術にて、モノづくりの環境変化対応や多岐にわたる課題解決に貢献することを目指しています。最新の設備管理技術開発事例や設備管理におけるDX活用など、先進的な取り組みを聴講できます。



TPMレディース大会

製造現場・管理・間接部門等あらゆる現場で活躍している女性の方々による改善事例やTPM活動事例が発表される大会です。30年以上の歴史があります。



優秀改善事例全国大会

設備管理強調月間中に開催される改善事例発表大会において「優秀発表」に選出された事例が集う発表大会です。

からくり改善®くふう展

製造現場における困りごとを、「現場のアイデア」で「知恵を出し、手づくり」で解決する「からくり改善」が一堂に会するイベントです。

「からくり改善」は人財育成につながることはもちろん、省エネによる脱炭素対応や現場のダイバーシティ化、ローコストでの自動化など、多くのモノづくり課題にも貢献する改善活動です。



アジアからくり改善®くふう展

日系企業が多く進出しているアジア地域において開催しています。

企業間交流

地域ごとに、設備保全、電気保全、TPM、からくり改善などのテーマで、様々な企業のメンバーからなる研究会・交流会を実施しています。他社(同業他社も含む)と課題を共有し、解決策を導き出すだけでなく、交流を担っています。

プラントエンジニア®デジタル

次世代エンジニアのための技術情報サイト

生産・設備管理に携わるエンジニア向けの情報を、Webブラウザ上で閲覧いただける技術情報サイトです。

生産現場の管理・技術レベルの向上や人材のスキルアップに役立つ技術情報・企業事例を、わかりやすく紹介します。

(機関誌「プラントエンジニア」をWeb版にリニューアル)

掲載内容

- 生産・設備管理・保全に関する技術情報
- TPM・改善事例等に関する最新情報
- DX・カーボンニュートラルの取組みに関する企業事例など
- 「プラントエンジニア」誌のバックナンバー(2025年3月号まで)

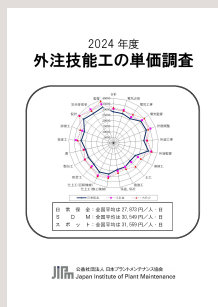


報告書・ガイド・テキスト・ツールの発行

報告書



メンテナンス実態調査報告書

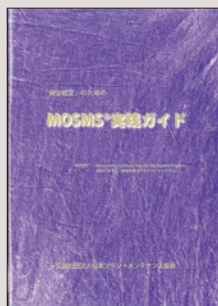


外注技能工単価調査報告書



冷却水からの熱交換器腐食抑制報告書

ガイド



MOSMS実践ガイド



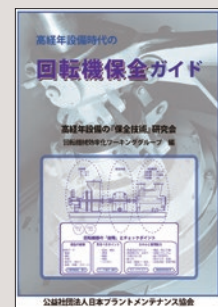
保全水準評価プログラム



外面腐食対策ガイド

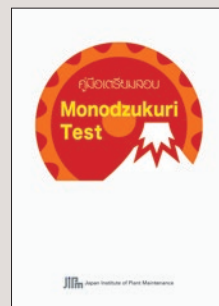


配管付属物の外面腐食対策ガイド

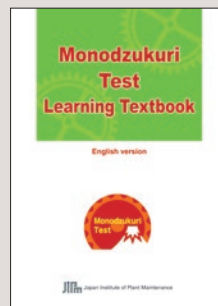


高経年設備時代の回転機保全ガイド

テキスト



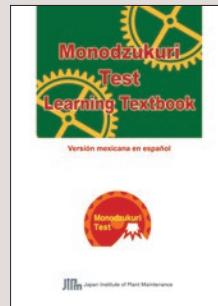
Monodzukuri Test 学習テキスト(タイ語)



Monodzukuri Test 学習テキスト(英語)

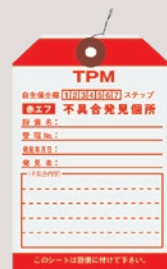


Monodzukuri Test 学習テキスト(中国語)

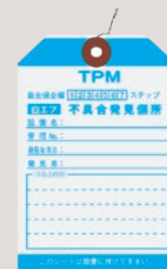


Monodzukuri Test 学習テキスト(スペイン語)

ツール



赤エフ



白エフ

審査表彰

TPM賞

TPM賞は、TPMによって成果をあげている国内外の事業場や、設備管理技術の発展に寄与する優秀な論文・商品等を審査・表彰します。客観的で公平な、多くの事業場に開かれた審査表彰制度として、5つの賞を制定しております。



TPMの手法によって成果をあげた事業場を対象とした賞です。事業場の規模あるいは活動の実績により6つの賞カテゴリーが設けられています。制定以来約3,700を超える事業場が国内外で受賞しています。



メンテナンス関連機器を表彰する賞です。アイデア・先行性・独創性に優れた「開発賞」と、効果が保証され実績に優れる「実効賞」が設けられています。



メンテナンスサービスの効率化を図り、製造プラントの信頼性と生産性向上に貢献し、メンテナンスサービス業界の発展に寄与した企業を対象とした賞です。



設備管理技術に関するシステムの研究あるいは改善実績等の論文で、独創性、効果、汎用性に優れ、設備管理の向上に寄与するものを表彰する賞です。



TPMの普及・発展に貢献した個人に与えられる賞で、経営者を対象とした「中嶋・鈴木賞」、技術者・推進者を対象とする「貢献賞」が設けられています。

会員制度

当会は、多様な業界からの会員のみなさまのご協力を得て、広く産業界のために事業を行っております。

1. 会員の区分

(1) 正会員

法人または個人で入会する会員です。当会社員総会での議決権を有する法律上の構成員となります。

(2) 事業所会員

事業所(工場、事業所など)単位で入会する会員です(社員総会で議決権を持ちません)。

2. 会費

(1) 会費の期間

入会月から1年間です。退会のお申出がない限り自動継続となります。

(2) 入会金

入会時に入会金10,000円が必要です。

(3) 会費(年会費)

①「法人の正会員」「事業所会員」の会費

従業員数に応じて、下表のとおり口数が決まります。

常時雇用される従業員数	口数
50名未満	1口(1口30,000円)以上
50名以上150名未満	1口(1口50,000円)以上
150名以上300名未満	1口(1口100,000円)以上
300名以上1,000名未満	2口(1口100,000円)以上
1,000名以上3,000名未満	3口(1口100,000円)以上
3,000名以上5,000名未満	4口(1口100,000円)以上
5,000名以上10,000名未満	5口(1口100,000円)以上
10,000名以上	6口(1口100,000円)以上

②「個人の正会員」の会費:30,000円

※入会金・会費は不課税です。

3. 会員特典

- セミナー・イベントなどの参加料の割引(一部除く)
- TPM優秀賞の審査登録費用免除
- 『プラントエンジニアデジタル』ID登録無料、フルアクセス可能
- 研究会・交流会等への登録・参加料無料
- メンテナンス実態調査報告書抄録無料配布

など

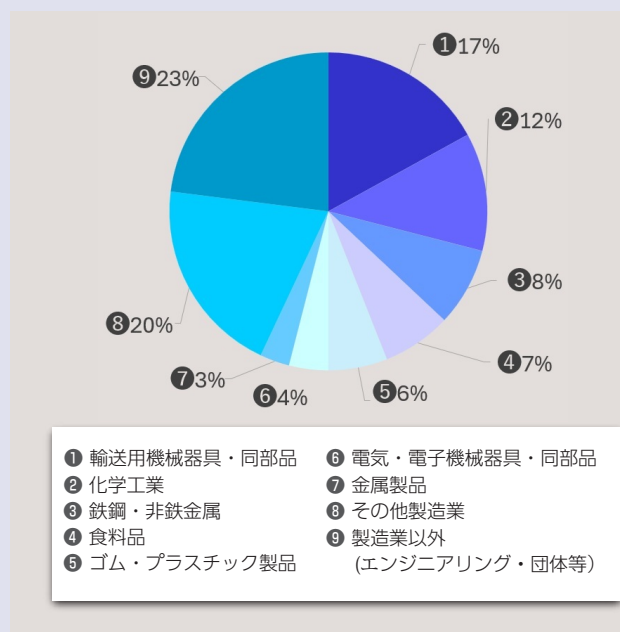
特典の適用範囲

- 法人入会の正会員:法人の全ての事業所とその従業員
- 事業所会員:入会している事業所とその従業員のみ
- 個人入会の正会員:当該個人のみ

4. 入会方法

①入会申込書(ウェブサイトに掲載) ②法人(または個人)の身分を証明する書類を当会へご郵送ください。入会は、随時受け付けております。入会申込書受領後、会費(1年分)の請求をいたします。

会員業種別割合(2026年3月現在)





自主保全士



機械保全技能士

機械保全技能検定



からくり改善



本部

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-3
神保町SFⅢビル 5階
TEL: 03-6865-6081 FAX: 03-6865-6082

中部事務所

〒450-0001 愛知県名古屋市中村区那古野1-47-1
名古屋国際センタービル 21階
TEL: 052-561-5634 FAX: 052-581-7811